

円安、消費増税の影響で苦戦

11月の業界WEATHER

全業種平均



前年同月比

概況

一部で売上増加も見られるが、消費増税の駆け込み需要の反動減をカバーするには至らず、円安による原材料、燃料等の高騰に苦慮している。また小売業は消費低迷が続く中、年末の総選挙で更なる落ち込みを懸念している。

製造業	食料品		パンの売上はやや上昇するも、円安による原材料高により収益は変わらない。菓子も売上は昨年比増加である。製麺は生・乾麺とも荷動き低調である。生麺は大手企業の寡占化が進行、業務向けは自家製麺の動きが加速し苦戦している。乾麺もPB商品の増加が著しく苦戦している。酒造は、ほぼ前年並みに推移している。
	繊維・同製品		婦人服地は来梅春用の生産時期だが小ロット傾向である。輸出向けは円安進行で今後を期待している。和装品は低調に推移している。伊勢崎織物は展示会来場者の銘仙に対する関心の高さが感じられ今後を期待している。繊維製品は、取引先の廃業が懸念される中、販売価格・加工賃が下落し厳しい状態である。
	窯業・土石製品		生コン出荷量は、大型物件が落ち込み全体的に減少している。コンクリートブロックは、消費増税による住宅着工数の落ち込みと燃料費高騰で経営難である。コンクリート製品は、昨年並みに推移するも上期の落ち込みをカバーできない。砕石は、販売価格は上昇傾向だが取引条件・収益状況は好転しない。
	機械・金属		僅かに売上増の中、円安による原材料高騰や人手不足による人件費高騰で収益は改善されず、下請企業は親会社からの短納期を迫られている。また若手人材の採用に苦慮している。富士重工関連の一次下請は好調だが二次下請以降の好況感は薄い。電機は昨年並みに推移している。プラスチック金型はフル稼働の状況である。
	その他の製造業		製材は、製品単価下落に加え、仕入単価上昇で採算が悪い。印刷業は、秋需要に伸びが見られず前年割れの状況で仕入先の統廃合が進む。ゴム製品は、円安による原材料上昇が経営の負担である。紙加工品は、受注増の気配もあるが消費増税の影響は大きく、以前の水準まで戻っていない。
非製造業	卸売業		高崎卸団地は、域内に新たな小売街区が誕生し、年内中に順次オープン予定である。太田卸団地は、富士重工関連の機械器具は業績向上で、ホンダ関連はリコール問題で苦戦している。前橋卸団地は、建設関連業種は好調だが他業種は大変厳しい。農産物卸は、輸入果実の卸値が前年比120%に上昇、野菜類は安値が続いている。水産物卸は、仕入価格の上昇で売上が大幅に減少している。
	小売業		家電小売は白物家電が比較的好調である。中古車オークションはイベント開催で収益良好である。ガソリン小売は、販売価格は前年並みだが需要減少が続く。商店街は消費増税後、低迷が続く、総選挙で更なる落ち込みを懸念している。
	サービス業		温泉旅館は、好天に恵まれ、団体客が増加するなど入込良好である。不動産取引業は、富岡地域では製糸場周辺の貸店舗の賃料が上昇傾向ながら、空き店舗不足の状況である。建物設計業は、今後の建物需要は横ばいと予測している。
	建設業		建築工事は昨年より景況感は悪化している。電気工事業は、仕事量に対する作業員不足は解消されない。鉄構業は、高稼働率だが職人不足の常態化で受注にも悪影響が生じている。
	運輸業		野菜、自動車関連、機械関連は好調で一部に運転手不足が見られるが、全体的に荷動きは低調である。軽油価格は僅かに下落したが高止まりが続く。小口輸送は、自動車部品や家電関連のチャーター依頼の特需で売上が増加している。

※本調査は、情報連絡員56人が所属する組合の全体的な景況（前年同月比）です。

県内の主な経済指標

- 鉱工業生産指数(季節調整値) 110.1(前月比▲2.7%)「県統計課・10月」
- 販売電力量 116,587万kWh(前年同月比▲4.8%)「東電群馬支店・10月」
- 住宅着工戸数 1,007戸(前年同月比▲20.5%)「県建築住宅課・10月」

- 求人倍率(季節調整値) 新規1.68倍・有効1.17倍「群馬労働局・10月」
- 大型小売店販売額 216億円(前年同月比▲1.6%)「経済産業省・10月」
- 消費者物価指数(全国) 103.6((前年同月比+2.9%)「総務省統計局・10月」
(鉱工業生産指数は17年=100とした指数・消費者物価指数は22年=100とした指数)